

弘法大師1150年御遠忌記念

## 人生は遍路なり

参拝心得。当山に矢印通りに来れたか知ら迷い有ればこそ  
参り教えられても叱られた中に入門悟れぬ也。正門の仁王  
様に罪穢れを祓い心静め入鐘突いても出金は葬式鐘で縁起  
悪し今一度参るべし。寺は観光地に非らず修行道場八十八  
通り有り。先ず本堂大師堂に納経を供えて室内安全を念じ  
込めて後宝印を授かり有難い物にして集印帳に成らぬ様  
に。仏を有難いがる様に物も大切に後の人々の為に清く人道  
を踏み寺参りするならば心経位は覚え知らぬが恥荷物にや  
ならぬ間違って良しプロでなし大声で唱えれば胃の為によ  
ろしい。目尻の皺は円満の相一本でもふやして同行二人の  
旅で世の中の一切を抱擁出来る豊な心に修行仕様ね。これ  
読みて腹立てば御本尊様に懺悔合掌精進すべし。

四国靈場第四十一番 龍光寺

愛媛県北宇和郡  
三間町戸雄

<四国八十八ヶ所靈場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

## 人生は遍路なり

御遺告を頂きて。お大師様が御入定に際し「我が後生の門徒たとえ我が現相を見ずと雖も我が形像を見る毎に我が真相の思いを生じ我が教えを聞く毎に我が言音の思いに住すれば我れ定恵の力を以つて攝取して捨てず」と尊く力強い御遺告を頂いて居りながら私達は自己中心の浅はかな世界に執われの毎日です。山中の賊は平げ易く心中の賊は亡ぼしがたしで他を批判する事は容易でも自己の事は何彼と理由付けで弁護する情ない哀れな姿であります。茲に壱千五十年を機縁として「仏法遙かに非ず、心中にして即ち近し」のお大師様のみ教えをして本来の仏性を開顯すべく身口意の三業を浄化し真相のお大師様を押し攝取の利益に浴すべく精進して参りたいものと思ひます。

四国靈場第四十二番 仏木寺  
<四国八十八ヶ所靈場会発行>

愛媛県北宇和郡  
三間町則 273

弘法大師1150年御遠忌記念

## 人生は遍路なり

宗祖千百五十年御遠忌にあたり

本年はお大師様の千百五十年の御遠忌にあたるということである。千百五十年という年月は永遠の昔のようでもあるが、実は昨日今日という永遠の今日というように考えられなくもない。仏法で生死一如ということはそう言うことであり、色即是色、空即是色という心経の言葉も、時空を超えた世界を見るということであると思う。四国霊場順拝は、同行二人御大師様の御徳を一人一人がいただき即身成仏の彼岸に近づく行であり、それは海山越えて順礼するすべての人々にあたえられる仏徳である。各靈場の諸堂の礼拝の行を重ねる謙虚なる順礼行者こそ、永遠の仏縁を結ぶ姿であり、幸福と繁栄と平和をもたらす行者の姿もある。

四国霊場第四十三番 明石寺 愛媛県東宇和郡  
宇和町大字明石

<四国八十八ヶ所靈場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

## 人生は遍路なり

### 同行二人の心

大師と二人連れ、御大師様の心に成りきつての御参りである同行二人の巡拝行も此所が半分中札の靈場です。御大師様の心に成るとは心の不純物を除去することです。貧りや怒りや放逸な心を取去ることです。要するに我儘を除くことです。私達の心は本来清浄であり善に向う本質が備わっています。それを見失ない、魯やかし損わすものがあるとすればそれは即ち自己本意な我儘な心と云えましょう。心の不純物を除去れば自から清浄な心になります。正不正、善悪、真偽が解り物事の眞実を見極めることができます。本当のことを探り本当のことをする、正しいことを知り正しいことをする心です。それを御大師様の心、同行二人の心と云い、全てに別隔やこだわりを越えた思いやりと劳わりの心が働くことになります。

四国靈場第四十四番 大宝寺

愛媛県久万町  
菅生2番耕地

<四国八十八ヶ所靈場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

## 人生は遍路なり

生まれてきたからには生きなければならぬ。飲み食い眠り、そして異性を恋いしめる。私達は、皆、本能に衝き動かされ、生命の維持存続に向って追い立てられています。生きなければならぬのは、私達を生かそうとする大きな力が四六時中支え働いているからなのです。でも、私達は、必ずやこうした單なる動物的生存を飽きたらず思う衝動にもかられます。それは、私達が、自らの生き方を省む能力を持つてゐるからです。他を見聞きし自らを省て、自分の生き方に修正を加えることができるのは、私達人間だけに具つた力ではないでしょうか。せつかくの人生をより良く生きる為に、日々自らを省て、その舵とりともなるべき心を磨きましょう。

四国靈場第四十五番 岩屋寺 愛媛県上浮穴郡  
美川村七鳥番耕地

<四国八十八ヶ所靈場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

## 人生は遍路なり

『阿字の子が阿字の古里たち出でて又たち帰る阿字の古里』お大師さまの此のお歌の意味は吾々は皆んな大日如来さまから尊い命をお分け頂いて此の世に生まれ出で唯にも委せられない重要な仕事に日々精進し此の世と人々の為に尽くし時期が来たらまた大日如来さまのみ元に立ち帰りますということです。いま私たちの仕事と暮しは千差万別で老若男女や健康病弱などはありますても、それぞれ掛けがえのない大切な命をひっさげ他人の冒すことができない唯一絶対の仕事を受け持ち精出して人生をわたっているのです。このような深い理解をすすめ乍らお互の心の中に仏を見出し拌み合える人生をつくりましょう。

四国靈場第四十六番 淨瑠璃寺  
愛媛県松山市  
淨瑠璃町 327  
<四国八十八ヶ所靈場会発行>

## 弘法大師1150年御遠忌記念

# 人生は遍路なり

### 火と水に対するおそれ

現代人の火と水に対する考え方について思いおよぶ事があります。それは「生火」を知る事が少なくなったとゆう事です。「生火」このような言葉が適切かどうかわからないが、御飯を炊くにもガスがあるいわ電熱、その点火については、それこそスイッチであるから、直接に火を扱う事も少なくなっている。ここで言うおそれとは、恐怖の恐れだけでなく、畏れを多分に含んだおそれである。今でこそあまり使われないが、火の神・水の神という恐れであり、畏れである。今のようにスイッチや蛇口の時代ではなく、マフチや付け木をもって火を伝え、流れや井戸によって水を使っていた時代、それも高度経済成長が叫ばればじめたころまでは、火と水は神にも比すべき大事なエネルギーとして教えられていました。もちろん今とて、その大事さにおいては変りはないが、問題は火と水に対する人間の側における対処である。暗い台所と煤で黒ずんだカマドは明るいキッチンに変り、井戸や貰い水をするという光景は無くなり、蛇口ひとつで水が流れでるようになります。

それ自体は大へん喜ばしい事であります、カマドの壁に貼られた「火の神様」火の用心という心がけ、さらに、井戸の側に建てられた、「水神様」という小さな祠が少なくなりました。今こそ、火と水に対する精神的な教育が必要な時代を迎えているのではないでしょか。

愛媛県松山市  
浄瑠璃町八坂

四国霊場第四十七番 八坂寺

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

## 人生は遍路なり

自性清浄の心我々はだれでも本来清浄なる心を持ち心性本淨であります。これを仮性とか如来藏心とか云ます。煩惱により覆われている我々の心に本来清浄なる本心を見出すことすなわち清淨菩提心を発得しこの菩提心の成就を目的としているのがお大師様のおしえです。人生は遍路なりと云いますが現在は物には非常に恵まれ豊かな暮らしに酔いしれて肝心の心の豊かさを失いつゝあるのではないでしょうか。我々は自分一人生きているのではなく生かされているのです。限りある人生のわずかな期間ですがお四国順拝をされ人の世の情け自然の恵みに感謝しながら生かされていふということを自分の肌で感じ自覚し清浄な心を見出し、意義ある人生を送りましょう。

四国靈場第四十八番 西林寺 愛媛県松山市  
高井町 1007

<四国八十八ヶ所靈場会発行>